



- ④ 玄関に入ると、やさしい木の香りがふわ... 教室から聞えてくる園児たちの声も、どことなくやわらかく心地いい。
- ⑤ 壁には健康に配慮された水性塗料を使用。ヒノキの床にもみつろうワックスを使うなど、化学物質が発散しないように配慮してある。
- ⑥ 木の温もりに満ちた手洗い場は、教室と教室のあいだをつなぐ位置にある。その手前はトイレ。
- ⑦ 冬季の暖房は、ゆうぎ室に設置されている薪ストーブのみで行う。建物全体が気密層で覆われているから実現できるという。
- ⑧ 子どもたちが遊ぶおもちゃは、木や布などを使った手づくりのもの。カタチを限定しすぎない遊具が子どもたちの想像力をかきたてる。

清流みずほ幼稚園
 瑞穂市森557
 TEL.058-328-7228

取材にご協力いただいた方々
 (株)アーキスタジオゴトー
 代表取締役 一級建築士
 後藤英紀さん

(有)グローバルアクト
 ぼぶらのみなさん

だから何人もの方と会って話をした末に、ようやく建築士の後藤英紀さんと組むことに決めたのです。それから後藤さんとは激論を戦わせる毎日でしたが、私の考えを理解し、応えてくださったと思います。大工さんほか、関係者の方々にも感謝しています。

私の建物へのこだわりとしては、まず何とんでも木造であること。安全な材料を使ったり、環境に配慮することも重要なポイントでした。

そこで後藤建築士が提案してくださったのが、岐阜県産の長良杉を多用することでした。いわゆる「地産地消」ですね。一般的にスギはヒノキとくらべると、ランクを低く見られがちですが、後藤さんは「地元産の森林振興のためにも、地元産の材料を使いましょう」と強くすすめてくれました。ちなみにスギ材は特別な乾燥方法で仕上げられていますから、色合いもよくて建物に馴染みまじった。もちろん強度の問題は十分に配慮してあります。また、このスギ材を使うためにも結露しない建物づくりを目指しました。そのためにもこの幼稚園は高气密・高断熱の構造にして

あります。子どもたちにはいつも心地よい環境のもとで遊んでほしいし、省エネにつながるようという思いから実現させました。当園を見学された人のなかに「言葉ではうまく言えないけれど、空気がやさしいですね」とおっしゃった方がいました。まさにそれを目指しているわけですから、うれし限りです。

ちなみに床材はすべてヒノキを使っています。壁は健康に配慮した水性塗料を使い、ゆうぎ室は珪藻土塗りにしました。樹脂系のは極力排除し、床下には高温炭・トンズつを五か所に入れるなど、子どもの体によさしい環境づくりをとことん考えたりもしています。

子どもに味わってほしい”本物のよさ”
”薪ストーブもその二つです。”

寒い季節になったら、当園での暖房は薪ストーブを使います。子どもが多くなる施設で、薪ストーブを使うなんて危ないのでは、と言う人もいますが、私はそうは思いません。火があるから

温かいことを知り、火のそばで熱さを感じることを大切だと思っております。薪割りは私やスタッフの仕事で大変なのですが、子どもたちに「本物のよさ」を感じてほしいからがんばれることなのです。

おひるごはん用の器も、二つと手づくりした陶器を使っています。落として割れてしまってもいいのです。割れた器を大人がどのように扱うかを見せることにより、子どもたちは学ぶのですから。上手に器が修理できたとき、子どもはとっても喜んで、それは大切に使うてくれますよ。

将来の夢としては、環境に負荷を与えない幼稚園づくりですね。太陽光発電や風力発電にも取り組みたいと思っています。さらに幼稚園のまわりで植樹して、100年後に建て替えるときの園舎の材料にしたい。とても遠大な計画ですが、一歩ずつ歩んでいきたいですね。



「水まきって気持ちいいなあー」。「ほらほらこも、まいてね」。園内には畑があり、子どもたちは四季折々に野菜や穀物を育てる喜びや、それを味わう楽しさを体験する。



お母さんのおなかのなかをイメージしているというこのハウスは、園児たちにとってやはり居心地のいい場所のよう。布や人形、木製のおもちゃを使って、それぞれが思い思いの遊びに熱中する。



清流みずほ幼稚園園長
加納精一さん

子どもは、やわらかな存在だから木の温もりに安心すると思うのです。

清流みずほ幼稚園は今年開園したばかりですが、入園式を終えて二日目したら、園児たちがすっかり落ち着いてきたのには、私自身もびっくりしました。これまでの経験ですと、普通は落ち着くまでに二〜三か月かかるのがほとんどでしたからね。

当園の子どもたちが、どうしてすんなりと落ち着いたのかという理由については、今のところはっきりわかりませんが、木の香りや当園のテーマカラーであるピンク色に包まれることでリラックスでき、さらにはいろんな要素が作用して、彼らに心地よさや安心感を

与えたのかもしれないですね。そうだとしたら、とてもうれしいですね。

そもそもこの幼稚園をつくりたいと思ったのは、私がドイツでシュタイナー教育を実践している幼稚園に見学に行ったことがきっかけです。子どもはもちろん大人もホッとする空間というのでしょいか、建物は五角形であったり六角形であったり、天井も心地よい高さで、なかにいる子どもたちがとても落ち着いていたのが印象的でした。

当時、私が園長をしていた幼稚園は鉄筋コンクリートの建物で、私自身も何となく威圧感を感じていたこともあって、子どもが育ちやすい空間というのが必ずあるはずだという思いを深めてドイツから帰ってきました。

子どものこころと体にやさしい “慈しみ”の空間づくり。

今春、岐阜県瑞穂市に新設された清流みずほ幼稚園。その園舎は岐阜県産のスギ材をふんだんに使った木造建築です。子どもたちのこころや体にやさしい幼稚園づくりを目指す園長さんに入園した子どもたちの様子、そして夢や思いをうかがいました。

日本はやはり木の国でしょう。だから木の良さを活かして空間をつくるのはごく自然なこと。とくに子どもは「やわらかい存在」ですからね、やっぱり木の温もりで包んであげたいなと思うようになりました。

建築士からの提案で採用した長良杉。塗料やワックスも安全性に配慮しました。

新しい幼稚園をつくりたいという夢を10年以上温めて、ようやく動き出したときにぶつかった難問が、どの建築士さんにお問い合わせするかということでした。やはりこちらの意向をきちんと汲み取ってくれなくては困りますよね。



清流みずほ幼稚園の所在地は瑞穂市森。田園に囲まれ、空が広く感じられる。温かみのあるピンク色の建物には二本の煙突が建っている。